

あなたは どう 思いますか？

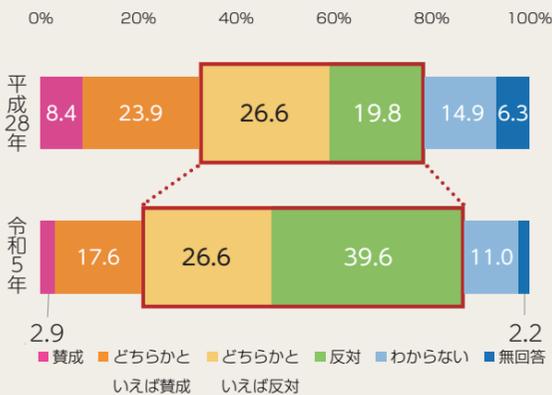
～人権・男女共同参画に関する市民意識調査の結果から～

市では、「三木市人権尊重のまちづくり条例」に基づき、人権が尊重される社会の実現に向けて、さまざまな取組を進めています。ここでは、昨年度実施した市民意識調査の結果のうち、前回調査(平成28年)と比較して変化のあった項目を中心に紹介します。

問 (市)人権推進課

Q1

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだと思いますか？

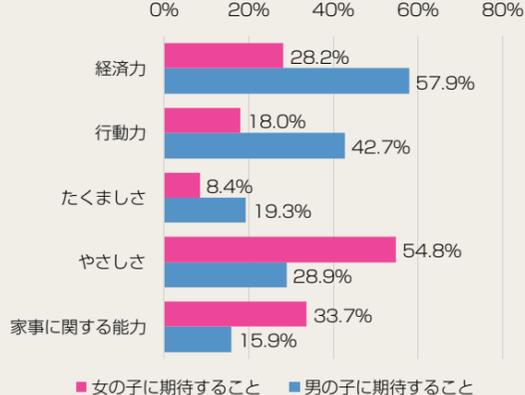


「男性は仕事、女性は家事育児」では、前回(平成28年)調査と比べ、「反対」「どちらかといえば反対」の合計が19.8%増えています。

時代とともに、ジェンダー平等への関心が高まっています。一方で、子どもに対して最も影響を与える親が、「男は男らしく」「女は女らしく」といった従来のジェンダーに関する意識を子どもに期待していることが分かります。

Q2

子どもにどのようなことを身につけてほしいですか？



女の子に期待することでは「家事に関する能力」「やさしさ」が、男の子に対する期待の約2倍に、反対に、男の子に期待することでは「経済力」「行動力」「たくましさ」が女の子に対する期待の2倍以上の結果となっています。

男女共同参画に関する市民意識調査の概要

調査期間 令和5年9月8日～9月30日

調査対象 18歳以上の市民2,000人

回収率 32.3%

▲調査結果の詳細はこちら

人権に関する市民意識調査の概要

調査期間 令和5年11月1日～12月15日

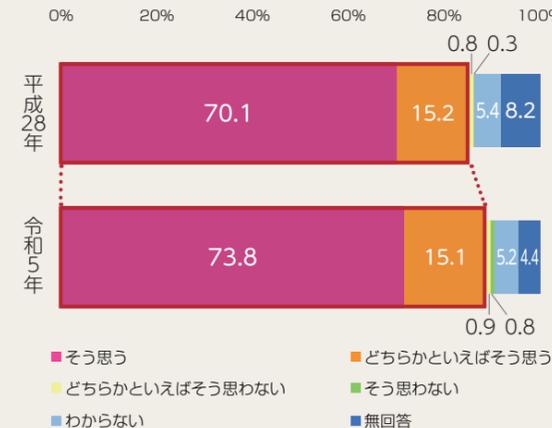
調査対象 18歳以上の市民3,000人

回収率 34.9%

▲調査結果の詳細はこちら

Q3

携帯電話やパソコンを使って特定地域やその地域の人を差別することは問題だと思いますか？

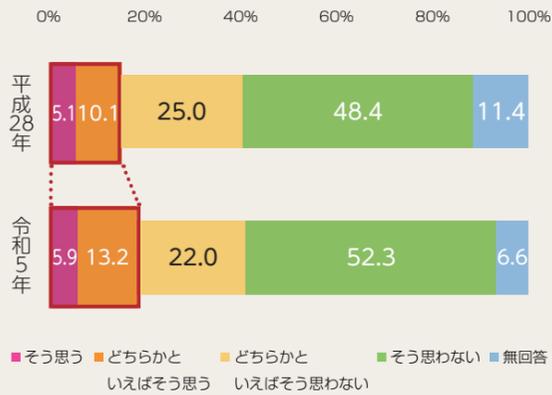


「メディアを使用した特定地域への差別」の問題性については、今回、前回の調査ともに、85%を超える割合で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答されています。

大部分の人が、メディアを利用した差別行為についてその問題性を認識しています。一方、ヘイトスピーチを認める回答が増加しており、インターネットの普及などによって過激な主張に触れる機会が多くなったことで、周囲の情報に流されてしまう傾向が強くなっていることが推測されます。

Q4

「表現の自由」として、ヘイトスピーチを認めてもよいと思いますか？



「表現の自由としてヘイトスピーチを認めてもよいか」という質問については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が前回(平成28年)調査よりも増加しています。

上記の結果から、さまざまな情報が飛び交う今こそ、人権問題を他人事ではなく、自分に関わることでありと捉え、進んで正しい知識を身につけていく意義は大きいといえるのではないでしょうか。

そこで！

住民学習で正しい知識を身につけましょう！



住民学習は人権について、各自治会が中心となって計画し、地域の皆さんとともに考え、話し合う学習会です。人権啓発DVDを見たり、学習教材や資料を使って話し合うなど、自治会によってさまざまな工夫を凝らして開催しています。ぜひ参加してみましょ。

問 (市)人権推進課 地域づくり推進係